

比布町地域おこし協力隊通信

比布町で活動する地域おこし協力隊の皆さんを紹介します。

協力隊特集 VOL.5・6

インドネシア・ベトナムから
シンタ・ヌルディアナさん
ラム・カイ・ハンさん

あそか苑で活躍する2人の
地域おこし協力隊



シンタ・ヌルディアナさん



ラム・カイ・ハンさん



特別養護老人ホーム「あそか苑」では、外国人の地域おこし協力隊が介護の現場で活躍しています。インドネシア出身のシンタさんと、ベトナム出身のラムさん。生まれ育った国を離れ、日本、そして比布町で働く2人に、仕事のことや町での暮らしについて聞きました。

利用者とのつながりが仕事の励みに シンタさん

インドネシア出身のシンタさんは、日本に来て約5年。旭川近郊の福祉専門学校で介護を学んだ後、地域おこし協力隊としてあそか苑で働き始め、今年で3年目を迎えました。

仕事でうれしいのは、利用者とのつながりを感じら

れた時。「顔を見ると安心する」と声を掛けてもらったこともあり、自分を信頼してもらえることが励みになっています。明るい性格と聞き取りやすい大きな声はシンタさんの魅力の一つです。

比布町については「鉄道もバスもあり、住みやすい」と笑顔。盆踊りなどの地域行事にも参加し、町で出会った人たちの優しさを感じながら暮らしています。好きな日本食はたこ焼き、刺身、納豆。休日には札幌や小樽、函館へ旅行することもあります。

「今まで出会った皆さんが優しくしてくれて感謝しています」。町で見掛けた時には、ぜひ気軽に声を掛けてください。

一つずつ経験を重ねながらラムさん

ベトナム出身のラムさんは、令和4年に来日。今年4月から地域おこし協力隊としてあそか苑で働いています。

来たばかりの頃は、入浴

介助など体力を使う仕事に慣れず、仕事が終わると疲れを感じる日も多かったそうです。それでも、一つずつ仕事を覚え、今では任せてもらえる業務も増えてきました。利用者の言葉を聞き取れない時にはもう一度尋ね、それでも難しい時は周囲の職員に確認するなど、コミュニケーションを大切にしています。

日本で感じた文化の違いは、仕事のスピードや街中のゴミ箱の少なさ。北海道の雪にも最初は驚きましたが、少しずつ生活にも慣れてきました。

料理が好きで、普段はベトナム料理を中心に自炊。日本料理ではカレーライスや豚の生姜焼きにも挑戦しています。冬には友人とぴつぷスキー場でスキーをするのも楽しみにしているそうです。

高校生の頃から「日本で働きたい」と思っていたラムさん。周囲に支えられながら、比布町で新たな一歩を踏み出しています。

